

地域循環型ミライ研究所

アニュアルレポート 2024



MESSAGE

所長メッセージ

地域循環型ミライ研究所がめざす社会像

2023年2月の地域循環型ミライ研究所設立から私たちの活動に共感し、共に歩んでくださるすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。

私たちがめざすのは、あらゆる人々が生きる喜びを感じられる社会、“ウェルビーイング”を中心に据えた持続可能な地域社会の実現です。その実現に向けて、この1年、地域の皆さまと共に「人とICTを起点とした新たな価値創造」に挑戦してきました。具体的には、その地域固有の魅力—文化、食、自然、風土、歴史などの社会的価値に着目し、それらを人とICTの力で磨き上げることで、社会的価値と経済的価値の循環を生み出していく取り組みです。“社会”と“経済”を対立するものではなく互いに補完し合い、循環する存在と捉えた、新たな地域活性化モデル創出—これらはNTT東日本のパーパス“地域循環型社会の共創”へのチャレンジでもあります。

本レポートでは、そうした活動の一端として、4つのテーマをご紹介します。地域資源を活用した関係人口創出、教育を軸としたモデル創出、地域の魅力を再発見する“ローカルディグ”、そして、地域価値創造に向けた

ソーシャルイノベーターの育成、というテーマです。共通して、人と地域が共に育つ新しい地域社会の可能性を描いています。

これからも私たちは、地域で生まれるアイデアや人々の思いをつなげる“プラットフォーム”としての役割を担いながら、地域の皆さまの“ソーシャルイノベーション・パートナー”であり続けたいと願っています。人口減少社会においても、自分たちの生き方や関わる地域やコミュニティに誇りを持ち続けられる。生きる喜びや人とのつながり、そして安心を感じられる。そんな“ミライ”を皆さまと共に創り上げていくことをめざします。

最後に、このレポートが、地域の可能性や未来の在り方について考えるきっかけとなり、皆さまとの共創を深める架け橋となれば幸いです。引き続き、温かいご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

私たちのミライへの希望と地域に生きる皆さまへの感謝を込めて。



NTT東日本 地域循環型ミライ研究所
所長 猪狩典子

ACTIVITIES

地域循環型ミライ研究所の活動概要

01 地域の資産・魅力の調査・研究

各地域の根底にある「文化」「食」そして「自然」「歴史」といった資産や魅力の調査・研究を通じて、その土地に根差す古来の魅力、地域の人も意識していない隠された魅力を“再発見”します。

02 地域のプレイヤーをつなぐ

さまざまな技術を持った人、地域で活躍されている人など、キーパーソンとのネットワーキングを行い、自治体、コミュニティ、NPO、住民、地域企業など、地域と共生・共創して地域の魅力や活動の発信に取り組みます。

03 政策の立案・提言

調査・研究から得られた地域の資源・魅力を、海外・外部視点も取り入れデザインすることによりキラリと個性を光らせ、地域ニーズや国策なども捉えた仮説を構築し、政策の立案・提言を行います。

04 地域社会への実装に向けた支援

地域への提言に留まらず、提言内容が地域で実装されるために、デジタルの力も活用しつつ、ロングタームで伴走します。

これらの活動を通じて
人とICTの力を起点に、地域の魅力を磨き、地域内外のヒト・モノ・資金・データなどの循環を生み出すことで、人々のウェルビーイングを中心に据えた持続可能な地域社会の共創をめざします。



“社会”と“経済”が循環するモデルを創出



CONTENTS

目次

THEME 01 地域資源を活用した関係人口創出



P5
祭りを起点としたワデュケーション



P6
住民対話を通じた
祭り文化の継承モデル

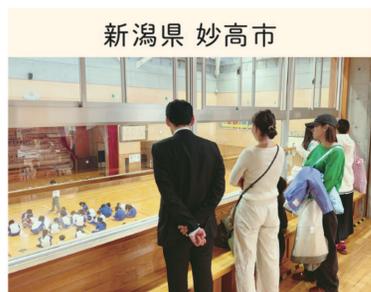


P6
新たな働き方と
ウェルビーイング向上の取り組み

THEME 02 地域をフィールドとした教育モデルの創出



P7
「地域越境型探究学習」による
地域愛醸成効果の実証



P8
子育て世代のための
移住モデル検証
～教育移住の可能性研究～



P8
教育を起点とした
まちづくりの実証実験

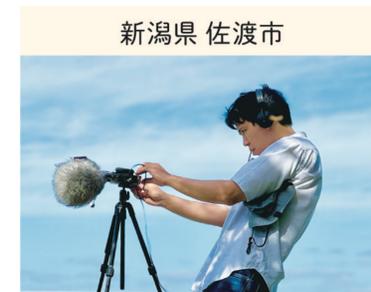
THEME 03 地域の魅力再発見～ローカルディグ～



P9
「イミ消費」を取り込んだ
地域文化継承のモデル構想



P10
地域の音を活用した
シティプロモーション実証



P10
音のフィールド調査×
二地域居住モデル構想

THEME 04 地域価値創造に向けたソーシャルイノベーター育成



P11
棚田を活用した企業研修実証
による社会起業家マインドの醸成



P12
「地域エバンジェリスト」支援



地域資源を活用した 関係人口創出

ここ数年で新たな働き方が浸透し、地方への移住にも注目が集まりました。ミライ研では、リモートワークの普及によって加速したワーケーションに、地域学習（Education）の要素を加えた「ワデュケーション※」のモデル実証に取り組んでいます。本取り組みでは、リモートワークで訪れた土地の文化・食・自然の体験や地域住民との交流を通じ、多様な形で地域に関わる「関係人口」を創出することをめざしています。

※Work（仕事）+ Education（地域学習）+ Vacation（休暇）を組み合わせた造語

祭りを起点とした ワデュケーション



関係人口を一過性のものではなく維持・継続するためには、地域と深く関わるきっかけが重要という仮説のもと、ボランティア体験や祭り参加、住民協働でワークショップを行うなどさまざまな地域との“関わりしろ”を盛り込んだワデュケーションを2回開催し、参加者の意識変容などを調査しました。



社員が「花輪ばやし」の屋台を押す様子

ユネスコ無形文化遺産である「花輪ばやし」に夜通し参加し、祭りの担い手不足に対し、関係人口が打開策となり得るのかを検証しました。



継続的な関係人口につながるコミュニティ

参加者は鹿角市の関係人口施策である「鹿角家（かづのけ）」などのコミュニティに入り、イベント参加などを通じて継続的に鹿角市とつながっています。

共創パートナー様より（鹿角市産業活力課 木村 幸樹様）

ワデュケーション実施後には、参加者全員が市の関係人口プログラム「鹿角家」へ入会していただき、首都圏イベントでの交流や活性化への意見交換など、関係人口「ど真ん中」の活動へと発展しています。



住民と協働で地域を考えるワークショップ

外からの目線で地域と関わることで見えてくる“地域の魅力とミライ”について、地域住民と共に考えるワークショップを実施しました。

住民対話を通じた 祭り文化の継承モデル



福島県の関係人口施策「ふくしまぐらし体験事業」と連携し、約200年続く「棚倉秋まつり」の運営支援を行いました。祭りを振り返る地域住民との対話会では外部の視点を共有し、祭りのミライ像を共に議論しました。



二台の山車が町内を賑やかに練り歩く

「奉仕・融和・団結の精神」で地域活動を行う新町組の方々と交流し、祭りの準備、当日の運営、片付けまで、一連の活動に参加しました。

共創パートナー様より（新町組 須藤 宗倫様）

「伝統的文化は排他的である」私たちはそう思い込んでいました。しかし、ミライ研の方々と交流をする中でそれは間違いであり、外部の視点を共有することにより誇りある祭りの魅力を再認識することができました。



住民対話から考える祭りのミライ

祭り後には、祭りのダイジェスト映像にて当日を振り返るとともに、地域にとっての祭りの価値と将来像をテーマとした住民との対話会を実施しました。

新たな働き方とウェルビーイング向上の取り組み



みんなで作る日本一幸せな町横瀬協議会に参画し、豊かな自然環境下で「働くとは」「ウェルビーイングとは」「まちづくりとは」を体感するワデュケーションを実施しました。参加者のウェルビーイング変化を調査し、まちづくりの“居場所と舞台”の社会実装に取り組んでいます。



ミライ志向ワークショップ

横瀬町の名産「まごぶどう」を題材にフューチャーマッピングを活用し、身近な人を幸せにするミライを描くワークショップを開催しました。

共創パートナー様より（一般社団法人ウェルビーイング政策研究所 代表理事 谷 隼太様）

ミライ研と一緒に企画したワデュケーションを通じて、都市部の方々に横瀬町の自然や文化・価値観に触れていただき、心身ともにウェルビーイングになり、リフレッシュする機会や新たな着想を得る場を提供することができました。



自然体感型プログラムの実施

チャレンジキッチンEngaWAIにて屋外プログラムを開催し、『ウェルビーイング×はたらく』のコンセプト検証を実施しました。

地域をフィールドとした 教育モデルの創出

「教育」を軸とした地域活性化について、各地でモデル研究に取り組んでいます。都会の高校生が地域課題に向き合ったら、どんな提案を導き出すのか、自然豊かな環境の中で、親と子が共に体験することはウェルビーイングの向上に寄与するか、子どもたちの元気な声が響くことは、地域の活性化につながるのではないか。それら問題意識を出発点として、未来を担う子どもたちと地域のための実証プロジェクトが始動しています。

「地域越境型探究学習」による 地域愛醸成効果の実証



長野県南部に位置する人口6,000人弱の喬木村の協力のもと、当社が連携協定を結んでいるドルトン東京学園と地域越境型の探究学習プログラム「地域課題解決ラボ」を実施しました。都市部の学生がこれまで接点なかった地域の課題に向き合い、自ら問いを設定し、情報を集め、仮説を立てる。そして、実際に現地に赴き交流し、解決策を考える。その営みが生徒たちと村の住民にどのような意識変容をもたらすのか、半年間の探究活動に伴走し調査しました。



阿島傘の保存・継承に向けた意見交換

作成当時日本一の大きさを誇った和傘の下で、伝統工芸品の保存・継承に取り組んでいる地域おこし協力隊の方の熱い想いを伺いました。



限界集落における地域住民との意見交換

令和2年の豪雨災害の被災地でもある大島地区は住民の8割強が高齢者。域外の学生との交流が地域にもたらす効果について調査分析しました。



喬木村役場とオンラインでつないだ最終発表会

半年間の探究成果を喬木村役場に発表し、現地での経験や観察を基にした解決策が、独自の視点を持つ内容として地域から高く評価されました。

共創パートナー様より（ドルトン東京学園教員 高木 佑也様）

NTT東日本の地域課題解決に取り組んだご経験に基づくアドバイス、また、豊富な人的ネットワークによる多様な主体との出会いがなければ、今回の学びは決して実現できませんでした。この学習を経てキャリア観を変えた生徒や、探究活動を続ける生徒も多くなります。



子育て世代のための移住モデル検証～教育移住の可能性研究～



自然豊かな環境での農体験やオルタナティブ教育実践校の見学が、不登校などの課題を抱え都心で息苦しさを感じているご家庭にどのような意識変容をもたらすのか。子育て世代の地方移住・二拠点生活の普及に向けた課題・可能性、ウェルビーイング向上要因の調査を行っています。



イエナプラン推進校の見学

全国的に希少なイエナプランを導入した公立小学校の見学。不登校児や未就学児を抱えるご家庭にオルタナティブな教育に触れる機会を提供中。



クラインガルテン 周辺の散策

畑が広がり、妙高山が一望できる豊かな自然体験を通じ、自宅と異なる子どもの活動や親子の会話が交わされるなどの効果が見られました。

共創パートナー様より（一般社団法人 妙高市グリーン・ツーリズム推進協議会 館野 智光様）

妙高にいる私たちだけでは出会うことのない、都市部のご家族の皆さまとつながることができました。いただきましたアイデアをもとに今後も地方と都市部のそれぞれの課題を解決するような、架け橋になっていきたいと思えます。

教育を起点としたまちづくりの実証実験



横須賀市の走水地域で漁業と飲食店を営む社会起業家と連携し、教育を起点としたまちづくり、場づくりを実践しています。活動の一環で「海とミライのがっこう」という自然体験プログラムを企画・開催しました。



早朝、元気に海の中を覗く子どもたち

親子向けの漁体験・食育体験。早朝から始まる刺網漁や魚を捌(さば)く体験を通じ、自然とのふれあいの大切さや命の尊さを学びました。



タコつぼからタコが出る瞬間を待つ参加者

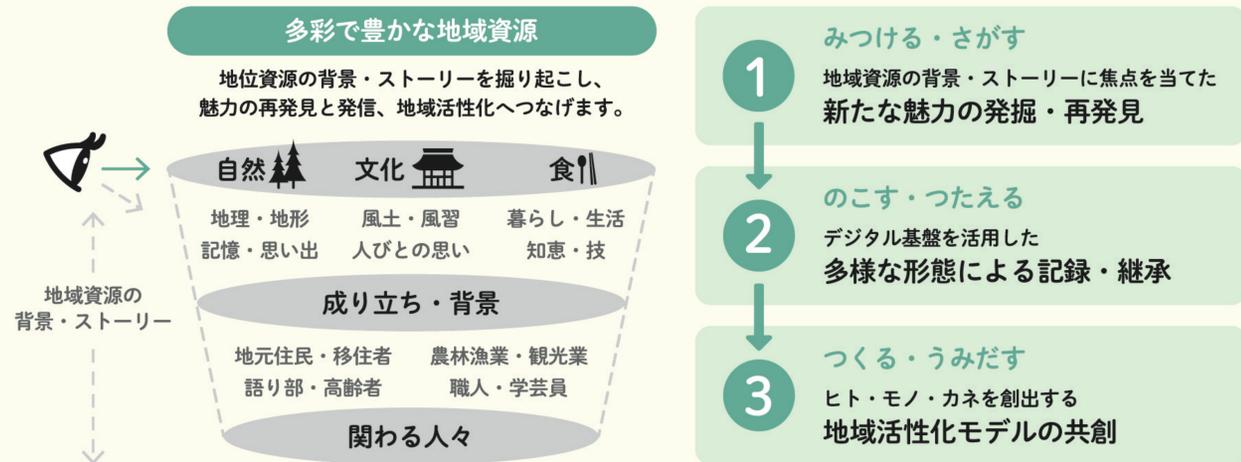
大人向けの漁師飯体験。現役漁師のジョンさんが捕まえたタコを自分たちで捌き、漁師飯を作る体験を行いました。

共創パートナー様より（かねよ食堂 金澤 等様）

研究員の方と共に進めてきた課題解決に向けた取り組みは、未来志向なプロジェクトに育ち始めました。それらは走水地域の価値を地域が再認識することにもつながり、新たな地域社会の発展の土台として期待されるものです。

地域の魅力再発見 ～ローカルダイグ～

「見えないものに目を向ける」をコンセプトに、地域資源の背景やストーリーに焦点を当てたフィールドリサーチを通じて、新たな地域の魅力を掘り起こすローカルダイグ・プロジェクトを各地で進行中です。地域内外の関係者との協働リサーチを通して新たな魅力を発掘・再発見し、それらを多様な形態で記録・継承するとともに、ヒト・モノ・カネをうみだす地域活性化モデルの共創に取り組みます。



「イミ消費」を取り込んだ 地域文化継承のモデル構想



地域文化の継承には、地域内外の人々の興味を惹き、行動を促すことが不可欠です。そこで、近年注目されている消費行動モデル「イミ（意味）消費」に着目し、その地域が持つ歴史や背景、ストーリーを基盤とした新たな交流や教育、観光のあり方を研究し、文化継承につなげます。



縄文と漁業の生活と歴史

縄文世界遺産の遺跡や周辺文化、名産品の真昆布漁業の生活と歴史を中心に、函館市東部地域が持つ豊かな文化と歴史の価値を再発見します。



歩き、観て、聴く地域探訪

地域文化の背景やストーリーを理解するために、フィールド調査や住民インタビューを通じて、地域の歴史や記憶、人々の思いを辿(たど)ります。

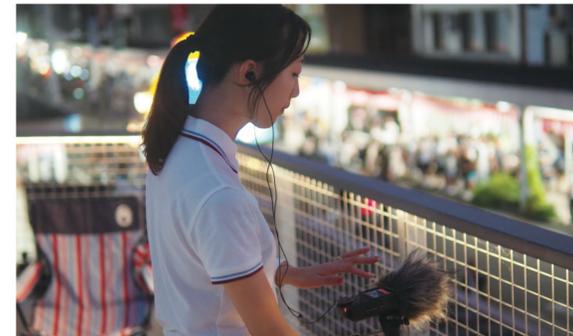
共創パートナー様より（ウタウカンパニー株式会社 代表 木野 哲也様）

初めて訪れる土地を歩き、出会う暮らし、ひと。再訪と対話を重ねて、じっくり浮かび上がっていくイメージや共感や何か。答えありきではなく、手探りの探索を地に足をつけて臨んでいくミライ研の姿勢に僕は賛同します。

地域の音を活用した シティプロモーション実証



人の記憶と「音」は深く結びついており、特定の音や音楽を聴くことで過去の記憶が呼び起こされるといった経験は誰しもあるのではないのでしょうか。本プロジェクトでは、小千谷市のさまざまな音を収集・発信することで、故郷を思い出すきっかけをつくります。



「おぢやまつり」に参加し屋上から録音する様子

小千谷市ひと・まち・文化共創拠点「ホントカ。」の屋上にて、60年以上続く伝統的なお祭り「おぢやまつり」で流れる音を録音しました。



「片貝まつり」の古式玉送りの様子

正四尺玉の打ち上げが有名である越後三大花火の一つ「片貝まつり」に参加し、花火やお囃子、木遣りなど、片貝ならではの音を集めました。

共創パートナー様より（小千谷市商工振興課 U・Iターン支援室長 大矢 尚様）

ミライ研様とご縁があり、「音」にフォーカスしたプロジェクトをご一緒させていただくことになりました。おぢやの「音」を発信することで故郷を懐かしく感じてもらい、Uターンのきっかけになればと考えています。

音のフィールド調査 × 二地域居住モデル構想



地域の自然や文化の音を通じた地域価値の創出、研究者や芸術家による新しい二地域居住モデルの構想を目的として、音響民俗学の研究者である日本学術振興会特別研究員でミライ研客員研究員の柳沢英輔氏とともに、佐渡市において5日間のフィールドレコーディングを実施しました。



魅力あふれるジオパークでのレコーディング

崖から波の音がする岩谷口、神秘的な雰囲気漂う乙池などでレコーディングを行いました。今後も佐渡の伝統と音の魅力を伝えていきます。



佐渡市で働く地元住民の方との対話

廃校をリニューアルした宿泊施設「佐渡風流nagomi」の従業員からUターン経験や想いを伺い、二地域居住に関する課題抽出などを行いました。

共創パートナー様より（日本学術振興会 特別研究員 柳沢 英輔）

土地の歴史や生態、風土に根差した音風景とその音を聴く文化を調査し、さまざまなメディアを通して公表することで、地域の魅力を音の観点から発信していけたらと思っています。これからミライ研の皆さまとさまざまな形で協働できるのを楽しみにしています。

地域価値創造に向けた ソーシャルイノベーター育成



棚田を活用した企業研修実証による 社会起業家マインドの醸成



日本の里山の原風景である棚田の多くは存続の危機に瀕しています。棚田の保全・継承に向けた活動を行う新潟県十日町市の社会起業家と連携し、星峠の棚田をフィールドとした企業研修を実施しました。多様な生命や文化の源泉である棚田を題材とした研修を通じて、社会起業家マインドの醸成や「通い農^{*}」の定着に向けたモデル研究を行っています。

※主に都市部などの地域外に住む人が耕作主体として、里山に通って田畑の保全に関わるライフスタイル



星峠の棚田耕作農家との対話会

農業従事者や行政関係者との対話を通じて、多様なステークホルダーの視点・課題を学び、社会課題解決に向き合う重要性を体感しました。



中山間地域の「今」を五感で学ぶ稲刈り体験

多様な価値を持つ棚田を保全・継承していくことの意義や大変さを体感することをねらいとして、地域の方と共に稲刈り作業を行いました。



地域おこしロールプレイングの様子

さまざまな関係者と協働した社会課題解決の実践として、棚田の課題解決をテーマに多様な役割を演じながら合意形成を図るワークを行いました。

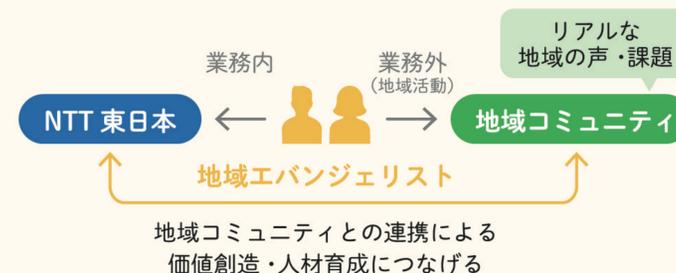
共創パートナー様より（株式会社里山パブリックリレーションズ代表 星裕方様）

「棚田の担い手確保」はソリューションドリブン。「通い農」が当たり前の未来」はビジョンドリブン。前者から後者への思索の転換と実践の第一歩は、ミライ研さんなくしては生まれなかった変化だったと思います。



「地域エバンジェリスト」支援

NTT 東日本グループは、地域活動に情熱を注ぐ社員を「地域エバンジェリスト」として認定・応援しています（認定約 300 名）。地域愛を起点に組織や企業の枠を超えて、ウェルビーイングを実現しながら自己成長を続ける彼らの活動を発信することで、周辺社員一人一人の行動変容を喚起し、多様なフィールドでの活躍を促しています。また、地域エバンジェリストの活動を通して、外部からは見えづらい地域の魅力や課題の再発見にアプローチしています。



地域エバンジェリスト活動のイメージ

業務内外の活動を通じた地域のリアルな課題の把握や、地域コミュニティとの関係を深めることで地域の価値創造に貢献していきます。

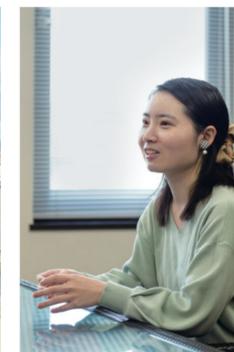


ビジネスイノベーション部 まちづくり推進グループ

飯田 有紀子さん

地域コミュニティ # 居場所づくり

“誰もが仙台・東北でもっと楽しく暮らす・働けるコミュニティ”「ONETOHOKU」を通じて地域の居場所づくりや若手支援に取り組んでいます。



サービス運営部 ネットワーク品質管理室

若林 謙さん

古典継承 # 日本文化

幅広い年代向けの競技かるたコミュニティを長野市で立ち上げました。入社後は休部状態であったNTTチームを再始動させ社内でも活躍中。



デジタルコンサルティング部 千葉エリア部門 第三グループ 千葉営業担当

高橋 透さん

農業 # 環境

業務で習得したスキルを活かして農業法人の設立に携わり、地元・千葉県香取市で耕作放棄地利用促進や用水路の保全活動を実施中。



MEMBERS

ミライ研メンバー紹介

研究員



猪狩 典子 / Noriko Igari

#地域コミュニティ #デザイン
#Well-being



川嶋 克之 / Katsuyuki Kawashima

#分散型社会の実現
#湘南移住 #企業の責務



藤田 建次 / Kenji Fujita

#テクノロジーの民主化 #音環境
#創造社会 #郊外文化



中山 雄太 / Yuuta Nakayama

#食文化 #愛媛移住
#教育



阿部 寛之 / Hiroyuki Abe

#教育移住 #長野在住
#デジタルアーカイブ



高山 麻由美 / Mayumi Takayama

#自然 #Well-being
#保存食



田中 健人 / Kento Tanaka

#地域文化 #記憶と記録
#地域ストーリー #イミ消費



原田 拓哉 / Takuya Harada

#コミュニティ形成 #Web3.0
#地方創生 × デジタル



戸井田 翔 / Sho Toida

#昆虫 #社内人材



谷口 翔太郎 / Shotaro Taniguchi

#攻めの企業法務 #地域課題解決
#ルールメイキング



水谷 考嬉 / Koki Mizutani

#関係人口 #祭り



本間 愛佳 / Aika Honma

#地域愛 #関わりしろ
#全世代の探求 #自然



小林 華子 / Hanako Kobayashi

#地域に根づく食 #元行政職員
#地方創生

研究員の
レポートはこちら



地域循環型社会を創る、多彩な知見と情熱が集結したメンバーたち

客員研究員



伊藤 将人 / Masato Ito

国際大学グローバル・
コミュニケーション・センター
(GLOCOM)研究員



逢坂 裕紀子 / Yukiko Osaka

国際大学グローバル・
コミュニケーション・センター
(GLOCOM)研究員



久保隅 綾 / Aya Kubosumi

Freelance UX &
Design Research Specialist



庄司 昌彦 / Masahiko Shoji

武蔵学園 データサイエンス研究所 副所長
武蔵大学 社会学部 メディア社会学科 教授



露久保 美夏 / Mika Tsuyukubo

東洋大学 食環境科学部
食環境科学科 准教授



野村 恭彦 / Takahiko Nomura

Slow Innovation株式会社 代表取締役
金沢工業大学 虎ノ門大学院 教授



柳沢 英輔 / Eisuke Yanagisawa

日本学術振興会 特別研究員
RPD (国立民族学博物館外来研究員)

※五十音順

兼務・ダブルワーク

兼務

佐藤 薫 / Kaoru Sato

武内 陶子 / Toko Takeuchi

徳田 紗耶果 / Sayaka Tokuda

藤矢 晴輝 / Haruki Fujiya

ダブルワーク

宇野 咲耶子 / Sayako Uno

窪田 真弓 / Mayumi Kubota

千葉 一深 / Hitomi Chiba

西村 莉玖 / Riku Nishimura

平田 淳子 / Junko Hirata

※五十音順